



JSQC ニュース

No.245

発行 社団法人 日本品質管理学会

東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内

電話:03(5378)1506 FAX:03(5378)1507

ホームページ: www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス「蘇れ! クオリティ競争力!」第76回品質管理シンポジウム報告
- 2-私の提言「初心に帰ろう」
- 2-ルポルターージュ 第86回講演会ルポ
- 3-ASQ Medal受賞 / 第288回事業所見学会ルポ / 5月入会者紹介
- 4-新規研究会メンバー募集 / 教員募集 / 行事案内

「蘇れ! クオリティ競争力!」第76回品質管理シンポジウム 報告

財団法人 日本科学技術連盟 安随 正巳

“TQMやデミング賞は企業の役に立たず、過去のものになってしまったのか...?” そんな危機感を抱きながら箱根に各企業トップが集結した。

(財)日本科学技術連盟主催の第76回品質管理シンポジウムが6月5日~7日に箱根・ホテル小涌園において開催された。「品質管理シンポジウム」といえば年2回開催され通称「箱根のシンポジウム」として親しまれ、品質管理界の一大イベントとして知られている。

今回のシンポジウムは、日本経済の牽引役ともいえる自動車産業のトップにご登場いただき、クオリティ競争力向上のためにTQMをどう役立てていくべきかを考える意図があった。参加者は約180名にのぼり近年になく盛大に開催された。特記すべきは、全参加者のうち会長職7名、社長職20名、取締役以上を含めると実に53名の各企業トップが参加されたことである。今回主担当組織委員である前田又兵衛氏(前田建設工業(株)代表取締役会長)の“トップよ箱根に集まれ!”という熱いメッセージが届いた結果と言えよう。

紙面の都合のため詳述することはできないが、概要を下記にご紹介する。

特別講演: 企業経営と顧客価値創造

- ユニチャーム『3つのDNA』の実践による経営革新 -

高原慶一郎氏(ユニ・チャーム(株)代表取締役会長)

高原会長の生き様から生まれた3つのDNAの重要性、そしてその効果を高める“実行力”など、高収益経営を続けているユニチャームの強さの源泉を感じた。

基調講演: 日本の優秀企業研究

- 我が国企業再生の方向を探る -
新原浩朗氏(独)経済産業研究所
コンサルティングフェロー

どうすれば優れた企業に変革しうるか、15年間もの研究成果からその条件を具体的企業事例により明示し、日本企業再生の条件を話された。

発表1: ブレークスルーの源泉

- 米国MITの事例より -

司馬正次氏(MIT 客員教授)

グローバル化が進む中、米国MITの事例からブレークスルーの源泉について説得力溢れる発表であった。日本企業復活へのヒントが大きく示されたといえよう。

発表2: ITを活用したトヨタのモノづくり改革

白水宏典氏(トヨタ自動車(株) 代表取締役副社長)

ITを高度に活用したトヨタのモノづくり改革について“デジタルエンジニアリングの活用”を中心にご説明をいただいた。さすが“世界のエクセレントカンパニー・トヨタ”といった内容であった。

発表3: クオリティ競争力を支える人づくり

山本卓志氏(本田技研工業(株) 取締役)

本田宗一郎氏の精神を脈々と受け継ぐホンダフィロソフィ、品質教育、New HONDA Circle活動、品質管理など“ホンダ流 人づくり”について明快な説明がなされた。

発表4: 三菱自動車におけるクオリティプロセス

シュテファン・ブッフナー氏(三菱自動車工業(株) 常務執行役員)

三菱自動車における変革への挑戦に

ついて、“クオリティ”に対する想いを中心にターンアラウンド計画、クオリティゲートシステムなど具体的事例をまじえて説明があった。

特別発表: CQO概念の確立

高橋 朗氏(株)デンソー 取締役会長・JSQC会長)

企業におけるCQO(Chief Quality Officer)設置の必要性について、アンケート結果なども踏まえながら高橋氏より説明があった。

特別講演2: V字回復を支えた経営システム - 日産リバイバルプランから“日産180”へ -

カルロス・ゴーン氏

(日産自動車(株))

取締役社長兼CEO)

シンポジウムのフィナーレを飾ったのは、奇跡の

V字回復を果たした日産自動車・ゴーン社長の講演であった。ゴーン社長の強いご希望により講演30分、質疑1時間という対話重視形式で進められた。



今回のシンポジウムは、様々な視点からクオリティに関する有益な議論がなされた意義深いものであった。TQM復活へ向けて確かなる一步を踏み出したといえるであろう。

今回は、11月27日~29日「挑戦と創造 - グローバル化のもとでの新たなTQMを求めて -」をテーマに開催を予定している。ハイアール・張社長、コマツ坂根社長などの講演が内定している。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げたい。

私の提言 「初心に帰ろう」

日本特殊陶業株式会社 取締役 高見 昭雄



21世紀になり、世の中がますます騒がしくなってきたと感じるのは、小生だけであろうか。弊社が属する製造業では、

経営分野では企業倫理・危機管理・中国の脅威などが声高に言われ、事業分野ではTOC・SCM・MOT・PLMなど、“ITを活用したソリューション”なるものが新聞や雑誌の誌面をにぎわしている。(工場では不良・歩留り・在庫・災害など、30年来の問題が依然として無くならず、そのギャップに戸惑いを感じているが...)

TQMの世界でも、いろいろな用語が氾濫している。“基本を大切に”と言われ、①お客様第一、②全員参加、

③継続的改善、④品質重視、⑤事実重視など、両手では足りないほどの“基本格言”を教えられた。また、方針管理・日常管理、PDCA、QCDSME、SQC、3ム、5ゲンなど、日本語だか何語だか分からない“略号”を聞いた。研究出身の小生には、前述のITソリューションとも合わせ、チンプンカンプンな時があったが、思想・行動・目的・ツールなどに整理してみて、何となく分かったような気になってきた。

現在のように、地球の裏側の政治や経済の変化が企業活動に影響し、その変化が早くて激しくなると、それへの“対処”に追われ、“解決(真の原因への対応)”が疎かになってしまふ。製品品質の確保と向上から出発し“改善ツール”として発展したTQMであり、品質の意味がモノサ

ービス しくみ 経営と広がっても、この解決に有用であろうと思っている。今私たちは、解決以上に改革を求められている。“しくみ”や“経営”の改革に、どうやって活用すれば良いか、悩む場面が多くなっている。

壁に当たった時には、基本に戻れと先人に言われている。TQMの基本とは・TQMの目的は何であろうか? いやいや、弊社のそもそもの設立の目的は何であったのか、仕事をする姿勢とは何であったのか? 創業者の精神や、ものづくりの魂をひもつくことにより、改革へのヒントが得られそうである。

言葉の注

・MOT : Management of Technology (技術経営) ...雑誌「マネジメント」03.3月号
技術開発への投資の、費用対効果を最大にするためのマネジメント

・PLM : Product Lifecycle Management ...雑誌「マネジメント」03.4月号
製品の開発～製造・販売～廃棄・リサイクルの、ライフサイクル全プロセスを包括的に最適に管理するソリューション

第86回中部 講演会ルポ

創造的なものづくりマネジメント革新

- 開発段階でのものづくりマネジメントと品質工学の活用 -

第86回(中部支部第40回)講演会が、4月22日(火)に豊田工機(株)厚生年金基金会館「ういず」に於いて開催された。「創造的なものづくりマネジメント革新」というテーマで当初予定の120名を超える148名の参加を得て、大西中部支部長の開会挨拶に続き、下記の講演が行われた。

【講演1】「創造的なものづくりマネジメント」

朝日大学 経営学部 教授 國澤 英雄氏

マネジメントについて日産、山一、長銀の事例を引きながら企業を発展させることも、破綻に追い込むこともあるマネジメントの必要性・意識と方法論について述べられ、さらに哲学という切り口からマネジメントを見るなど日頃の研究成果を講演いただいた。参加者からは「マネジメントに対する独特な切り口からの話

が興味を呼んだ」、「開発段階でのものづくりという点についてもう少しお聞きしたかった」との声があった。

【講演2】「もぐら叩きからの脱却」

品質工学会 副会長 原 和彦氏
(関西品質工学研究会 前会長)

顧客の立場に立った高品質のモノ造りを進めることが社会的な生産性向上にとって必要であり、そのためには技術的思考(目的追求)重視のモノ造りが大切である。従来の問題解決型設計では、予測できなかった問題が発生する都度対策するという「もぐら叩き」が発生する。やり直しをしないモノ造りのためには技術開発型の品質工学に基づく設計(ロバスト設計)が重要である、ということについて両者の比較を交えてわかりやすく講演された。参加者からは「ロバスト設計の考え方について大変よく理解でき興味をもった」、「もう少し事例の紹介をしていただければより良かった」との声があった。

大西支部長のものづくりに対する熱意あふれる開講挨拶からはじまり、講演者お二方の示唆に満ちた講演があり、盛会のうちに終了した。

後藤真治(トヨタ車体)

近藤先生、狩野先生 ASQ Medal 受賞 おめでとうございます!



去る5月19日、アメリカのKansas Cityで開催されたASQ (アメリカ品質協会)の年次大会で、当学会の名誉会員で元会長の近藤良夫氏(京都大学名誉教授)がIshikawa Medalを、前会長の狩野紀昭氏(東京理科大学教授)が、E.Jack Lancaster Medalをそれぞれ受賞されました。

近藤良夫氏に与えられたIshikawa Medalは、故石川 馨博士の功績をたたえ1993年にASQCが創設した賞で品質管理活動を通じて特に人間的側面の向上に貢献した個人またはチームに与えられるもので日本ではこれまでに、米山高範氏、笹岡健三氏が受賞されています。

狩野紀昭氏に与えられたE.Jack Lancaster Medalは、故E.Jack Lancaster氏の功績をたたえ1981年に創設されたもので、品質管理専門家として国際的な立場から献身的に活動を展開し傑出した功績を残した個人に与えられるもので日本ではこれまでに、近藤良夫氏が受賞されています。

第288回中部 事業所見学会 ルポ

中部国際空港 旅客ターミナルビル建設工事

4月25日(金)第288回(中部支部第68回)事業所見学会が陶磁器の常滑焼きで知られる愛知県常滑市沖の伊勢湾に浮かぶ中部国際空港島内の旅客ターミナルビル工事事務所にて開催された。テーマは『人工島における国際空港ビル建設の効率的な施工管理の実施』。募集から数日で定員に達し関心の高さが窺われた。また、今回は高橋会長の参加をいただき名誉なことであった。

空港は2005年春開業に向けて全施設を建設中である。空港島面積約470ha。滑走路3,500m1本、旅客ターミナルビルは鉄骨造4階延床面積約220,000㎡、他付属建物群で構成されている。今回の見学対象のターミナルビル形状は鶴が翼を広げて飛んでいる姿をモチーフとしている。両翼を南北ウィングとし1,030m、頭部をセンターピアとし500mもの長さがある。

当日は、生憎霧雨の天候で、常滑港から見えるはず

の壮大な伊勢湾の眺望が見られなかったのは残念であった。責任者の出迎えを頂き送迎バスで空港島に向かった。バスが島と結ばれた連絡橋をわたり始めると霧の中から巨大な連絡鉄道橋の橋脚や管制塔を始めとした工事の諸施設群が見えてきた。車中その壮大な様子にしばし感動しつつ会場に到着した。

会場では発注者の空港会社様も臨席案内を戴いた。事業所責任者から人工島という困難な条件下で34ヶ月の長期間にわたり、長大な建造物を期日に完成させるための工事工程管理手法他の説明を受けた。総長1,500mにもおよぶ鉄骨梁、柱、トラス屋根組立の管理手法は建設業ならではの品質管理とものづくりを感じた。その後、広大な現場にて巨大なトラス屋根ユニットの吊り込みセット作業やガラス外壁ユニット板の取付作業を目の当たりにし建築施工精度管理を見学した。

活発な質疑応答の後、会長の講評も戴き見学会を終了した。帰途の車中、あらためて人間のものづくりの偉大さと力強さに思いを馳せつつ常滑駅にて解散した。

鳥内道夫(櫛竹中工務店)

2003年5月の入会者紹介

2003年5月の理事会において、下記のとおり正会員15名準会員12名賛助会員2社2口の入会が承認されました。

(正会員15名) 高本 啓司(中央システム) 前田 博(新日本科学安全性研究所) 藤井 謙作(オーツタイヤ) 小野 真(日立製作所生産技術研究所) 芝山 有三(NEC東芝スペースシステム) 樋口 潔(日本電気) 砂塚 亮(マキタ) 鈴木 一俊(農

林水産消費技術センター) 川上 精宏(川上コンサル事務所) 奥定 樹(奥定技術コンサルタント事務所) 遠藤 弘樹(サンデン) 山際 和男(三菱マテリアル) 吉長 睦郎(ジェービーネットワーク) 一戸 真子(高崎健康福祉大学) 北林 寛史(日本科学技術連盟)

(準会員12名) 望月 智子(山梨大学) 孫 晶・池本 賢司(電気通信大学) 佐藤 慶・小山 高顕・磯部 章(中央大学) (電気通信大学) 山本 健太・高畑 健

二・会田 均(東京大学) 山内 太介・内海 良介・田原 慎一郎(東京理科大学) 雨貝 匡哲(青山学院大学)

(賛助会員2社2口) Jフォン 小林 達郎 シスコシステムズ フレミング コングスバーク

正会員: 3204名
準会員: 107名
賛助会員: 191社217口
公共会員: 22口

新規研究会メンバー募集：環境マネジメントシステム研究会

教員公募

新規研究会の設置が決まりましたので会員を募集いたします。

標記研究会では環境マネジメントシステムの有効性の検証と効果的な推進方法を研究する。併せて、環境にやさしい経営やビジネスについても研究することを目的とします。主な内容は「ISO14001の取得効果（取得する理由、取得した効果）の調査と分析」および「ISO14001の外部評価（購入者から見た14001の価値）」です。このためのアンケート調査も計画し、実施する予定です。また、逐次、専門家を招聘して講演をいただく予定です。研究会は隔月で開催いたします。積極的なご参加をお待ちしています。

主 査：岡本 真一（東京情報大学）
副 主 査：長沢 伸也（早稲田大学）
開 催 日：第1回研究 平成15年7月10日(木)18時～20時
申込方法：本部事務局宛に会員番号・氏名・所属・連絡先を明記のうえ
 E-mail (office@jsqc.org)にてお申し込みください。
定 員：20名

筑波大学教員公募のお知らせ

採用人員：1名
募集分野：数理科学（応用統計・品質経営）
職 名：助教または講師
所 属：社会工学系
勤務場所：大学院博士課程ビジネス科学研究科
 〒112-0012東京都文京区大塚3-29-1
応募資格：博士（ないしPh.D）の学位または、博士論文に相当する高度な実務業績、のいずれかを有していること。
詳細URL：<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/jimukyokukara.html>
採用時期：平成15年10月1日以降 決定後なるべく早い時期
選考方法：書類審査・面接
提出書類：ホームページをご参照ください。
応募締切：平成15年7月19日（土）
提 出 先：ホームページをご参照ください。
問い合わせ：筑波大学大学院ビジネス科学研究科 教授 橋 広計
 E-mail:tsubaki@gssm.otsuka.tsukuba.ac.jp

行 事 案 内

第91回シンポジウム（中部）

テーマ：「日本のものづくり」における品質確保の原点復帰と今後の方向を探る

日 時：2003年7月10日(木)10：50～16：30

場 所：名古屋市中区役所地下ホール

基調講演：

日本のものづくり、品質確保の原点復帰と今後を考える

太田 和宏氏

（デンソー特別顧問 豊田紡織相談役）

事例講演(1)：

ものづくりの面から品質確保の原点復帰と今後を考える

猪原 正守氏（大阪電気通信大学）

事例講演(2)：

人づくりの面から品質確保の原点復帰と今後を考える

大滝 厚氏（明治大学）

事例講演(3)：

ものづくりの企業からものづくり、品質確保の現状と今後を考える

加藤 典孝氏（ソニーEMCS）

定 員：200名（会員優先）

参加費：会 員5,000円 準会員2,500円

非会員7,500円 学生一般3,500円

申込方法：所定の申込書にご記入の上、中部支部事務局までお申し込み下さい。

申込締切：7月4日(金)到着分

第36回クオリティパブ（本部）

テーマ：顧客視点の店づくり

ゲスト：田村 弘一氏（㈱クイーンズ伊勢丹取締役会長）

日 時：2003年7月17日(木)18：00～20：30

場 所：(財)日本科学技術連盟

東高円寺ビル5階研修室

参加費：会 員3,000円 非会員4,000円

準会員・学生一般2,000円(含軽食)

詳 細：ホームページをご覧ください

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji.html>

第292回事業所見学会（中部）

テーマ：ビールの製造工程における鮮度管理と環境保全活動について

日 時：2003年7月25日(金)13：30～16：00

見学先：アサヒビール名古屋工場

定 員：40名（会員優先）

申込方法：会員No.・氏名・勤務先・所属役職・TEL・連絡先住所を明記の上、中部支部事務局までお申し込み下さい。折返し参加要領をお送りいたします。

申込締切：7月10日(木)到着分まで

（但し定員になり次第締切）

参加費：会 員2,500円 準会員1,500円

非会員4,000円 学生一般2,000円

第291回事業所見学会（本部）

テーマ：総合的マネジメントシステムで質経営の実践に学ぶ

見学先：㈱コーセー狭山事業所

日 時：2003年7月29日(火)13：20～16：30

定 員：30名（先着順・会員優先）

参加費：会 員2,500円 準会員1,500円

非会員3,500円 学生一般2,000円

申込方法：会員種類・氏名・勤務先・連絡先住所・TEL・FAXをご記入の上、本部事務局宛にE-mailまたはFAXにてお申し込みください。

第92回シンポジウム（本部）

テーマ：ISOマネジメントシステムを取り巻く潮流：課題と展望

日 時：2003年8月1日(金)10：00～17：00

場 所：東京都江戸東京博物館1階ホール

基調講演：

マネジメントシステム規格と適合性評価の展望

吉村 宇一郎氏（経済産業省）

発 表(1)：

環境マネジメントシステムの改正動向と組織への影響

吉田 敬史氏（三菱電機）

発 表(2)：

次世代のISO9000：クオリティマネジメントシステム；持続可能な成長の指針及び自己評価の指針

飯塚 悦功氏（東京大学）

発 表(3)：

「ISO10006：プロジェクトにおける品質マネジメント」改訂の要点について

中村 翰太郎氏（建材試験センター）

発 表(4)：

品質/環境マネジメントシステム監査規格（ISO19011）適用の要点及びコンサルタント規格の開発

阿久津 進氏（日本規格協会）

募集人数：300名

参加費：会 員5,000円（締切後5,500円）

準会員2,500円

非会員7,000円（締切後7,500円）

学生一般3,500円

ホームページから申し込みできます。

申込締切：2003年7月25日(金)

第72回研究発表会（中部）

テーマ：「品質確保の容易化と確実化に向けた研究と実践」

日 時：2003年8月6日(水)10：30～17：00

会 場：名古屋工業大学

内 容：研究発表事例 14件
懇親会

定 員：100名（会員優先）

申込方法：同封申込書にて中部支部事務局までお申し込み下さい。

申込締切：7月29日(火)到着分

参加費：会 員4,000円 準会員2,000円

非会員6,500円 学生一般3,000円

懇親会4,000円

第11回ヤング・サマー・セミナー（本部）

テーマ：「商品企画 - 理論と実務から社会をみる -」

日 時：2003年8月22日(金)～23日(土)

会 場：サンデンコミュニケーションプラザ（埼玉県本市市）

参加資格：準・正会員(原則として満35歳以下)

参加費：無料(交通費自弁)

定 員：35名

申込方法：会員No.・氏名・所属・年齢・連絡先住所をご記入の上、本部事務局宛にE-mailにてお申し込みください。

詳 細：ホームページをご覧ください。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji.html>

行 事 申 込 先

本 部：166-0003 杉並区高円寺南1-2-1
(財)日本科学技術連盟

東高円寺ビル内

(社)日本品質管理学会

TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail:apply@jsqc.org

中部支部：460-0008 名古屋市中区栄2-6-1
白川ビル別館

(財)日本規格協会 名古屋支部内

(社)日本品質管理学会 中部支部

TEL 052-221-8318

FAX 052-2203-4806

E-mail:nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-25
(財)日本科学技術連盟 大阪事務内

(社)日本品質管理学会 関西支部

TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail:kansai@jsqc.org